

# 製本のススメ

Vol. 60

毎年 正月太りだと言い、痩せる間もなく節分になり、反省がありません。反省だけならサルでも出来ると言いますが、こうなるとサルよりレベルが低いと言う事でしょうか！？今年こそ、体型のレベルアップを図りたいものです。

なんと Vol.60 になったので

今回は物を作る(印刷～製本)事の【かたち】についてお話ししましょう。【かたち】とは製品の形だけでなく、それに対するお客様のイメージや期待感を含んでいます。

私達製本では刷本を見て「このお客様(エンドユーザー)は、どんな物を作りたいのか」とまず考えます。単純にトンボが付いているからと言う様な作業はしていません。実はトンボだけでは見栄えに不都合が出る事も多く、若干の寸法変更をする事があります特に中綴じ加工やインデックスの有る様な場合には机上からでは計りきれない寸法もあり、指示通りのサイズでは、お客様のイメージと食い違うのでは？と判断する事も多いからです。

さて商業的な量産の印刷物はともかく、自費で初めて本を作ろうとする場合、多くの人は身の回りの本やカタログを見てイメージを抱くと思いますが、特に際立ったデザインや趣向性の強い物などは、お客様と同じイメージを持つ事が不可欠なのです。しかし残念ながら製本の現場にはそれが届きにくいのが現状です。雑に折られた刷本と1枚の指示書で【かたち】をイメージしなくてはならず、暗闇を手探りで進むのと同じです。ときには一部抜きの折丁すら来ない事もあり トンボを頼りに進めるしかありません。すると前記したように、思わぬ所で不都合が発生しお客様の納得し難い品が仕上がる事もあります。何度も打合わせ校正し色合いを調整し刷り上りのチェックもすることでしょう。そこまで来たら、きちんとトンボで折り、意向通りに印刷されているか製本での注意点は何処か、仕上がりのイメージまで伝えて欲しいのです。

製本会社は、単に紙を折ったり綴じたりして製品にする訳ではありません。お客様の【かたち】を「形」に変えるのが仕事です。そのイメージをぜひ製本まで伝えて下さい。自分の思ったとおりに本が(印刷物が)出来上がって来た時に、そのお客様はきっと皆さんのリピーターになってくださると思います。



## Tea break

初詣・合格祈願などお参りの時には拍手(カッパ)を打ちます。魏志倭人伝によれば、偉い人に会った時は手を打つと記載されているそうで、この拍手は【魂振(タマリ)】と言われ、立てる音で神様を招き相手を祝福する方法であったようです。これが現代に伝わり参拜時には手を打つようになったそうです。

by (株) 井関製本